

研究の仮説

生徒指導の三機能を生かした道徳教育を、教育活動全体を通じて行えば、すべての生徒の自己存在感が高まり、道徳的実践力の向上につながるであろう。

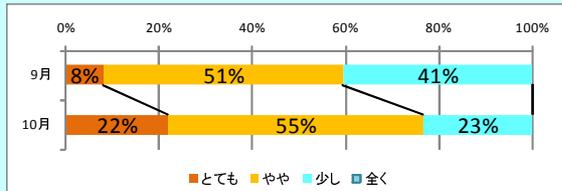
仮説検証の視点

生徒指導の三機能を生かした道徳教育の具体的かつ重点的取組は有効であったか。

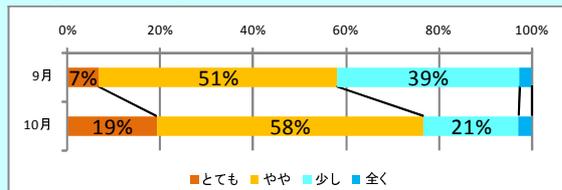
【検証】生徒の意識調査結果

(1) 自律に関する生徒アンケート結果

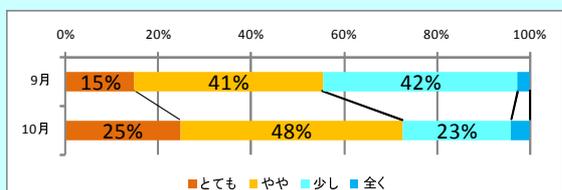
① 学習の際に考える場面で、友だちに自分から積極的に声をかけている。



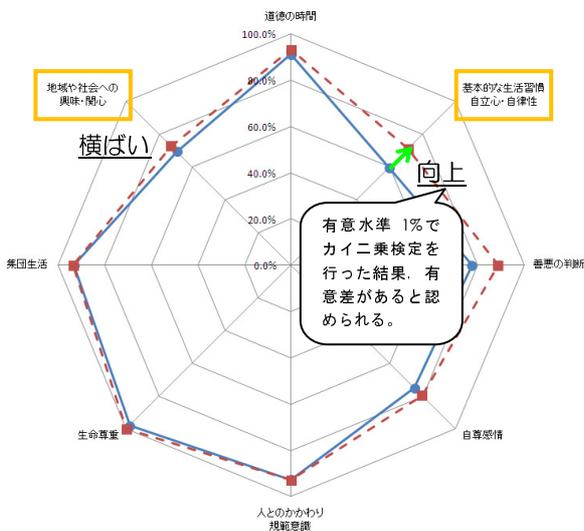
② 設定した個人目標について努力をし、振り返りを行っている。



③ 三点固定を意識して生活している。

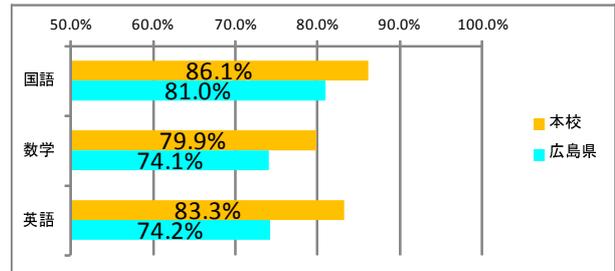


(2) 道徳に関する生徒アンケートの結果



実線…平成24年2月実施（現2，3年52名）
点線…平成24年10月実施（1～3年74名）

(3) 基礎・基本の定着について（平成24年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果から）



【成果】

- 自律育成プログラムの前後で、生徒アンケートでは、友だちとの関わりや目標の設定と振り返りなどの項目で肯定的な回答が20ポイント程度上昇しており、プログラムが機能しているものと考えられる。
- 生徒アンケートでは、自立心・自律性に関する項目が約12ポイント上昇しており、生徒指導の三機能を生かした授業づくりや道徳的実践につながる教育活動が有効であると考えられる。

【課題】

- 地域や社会への興味・関心がほとんど変化しておらず、依然として課題がある。

【今後に向けて】

生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開する中で、基礎・基本の定着を図り、自己存在感をさらに高めていく。郷土に関するプログラムを実践することで、地域や社会への興味・関心を向上させる。

【提言】

生徒指導の三機能を生かした教育活動を展開し、適切に評価することで、すべての生徒の自己存在感が高まり、道徳的実践力の向上につながる。